



2024年2月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2023年10月13日

上場会社名



株式会社メタリアル

上場取引所 東

コード番号 6182 URL <https://www.metareal.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役 (氏名) 五石 順一

問合せ先責任者 (役職名) 取締役 グループ管理本部長 (氏名) 荒川 健人 TEL 03-6685-9570

四半期報告書提出予定日 2023年10月13日 配当支払開始予定日 -

四半期決算補足説明資料作成の有無：有

四半期決算説明会開催の有無：有

(百万円未満切捨て)

1. 2024年2月期第2四半期の連結業績（2023年3月1日～2023年8月31日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年2月期第2四半期	2,112	△2.3	390	61.5	419	55.3	232	111.9
2023年2月期第2四半期	2,161	5.4	241	177.2	270	150.1	109	100.2

(注) 包括利益 2024年2月期第2四半期 232百万円 (111.9%) 2023年2月期第2四半期 109百万円 (100.2%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年2月期第2四半期	21.78	21.42
2023年2月期第2四半期	10.29	10.12

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年2月期第2四半期	4,617	1,378	29.0
2023年2月期	4,220	1,133	25.9

(参考) 自己資本 2024年2月期第2四半期 1,337百万円 2023年2月期 1,092百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年2月期	-	0.00	-	0.00	0.00
2024年2月期	-	0.00	-	-	-
2024年2月期（予想）	-	-	-	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2024年2月期の連結業績予想（2023年3月1日～2024年2月29日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	4,589	6.9	611	18.6	—	—	—	—	—

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

◆セグメントごとの連結業績予想

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益	
	百万円	%	百万円	%
通期				
AI事業	3,152	8.3	599	△4.9
HT事業	1,416	3.4	254	△4.6
メタバース事業	20	95.0	△280	—
その他本社費等	—	—	36	△15.2

（注） 1. 当第2四半期連結会計期間より、従来「MT事業」としていた報告セグメントの名称を「AI事業」に変更しております。

従前AI翻訳を主としたセグメントとして「MT事業」を称してきましたが、今後の企業戦略並びに足元の状況としては「生成系AI」も含めたより広範なAIサービスを見据えており、より適切にその実態を表す名称として「AI事業」へと名称変更いたしました。

なお、あくまで名称変更であり、数値区分修正はございません。第1四半期連結会計期間まではMT事業に含まれていた「Metareal AI」についても「AI事業」に含まれております。

2. 2023年2月期においてはレンジでの業績予想を行っていましたが、2024年2月期は、音声AI翻訳リリースからの情報累積並びに新型コロナウイルスの5類感染症への移行等に鑑みて、既存事業についてはレンジでの業績予想ではなくスポットの業績予想を行うことといたしました。

なお、上記業績予想数値にMetareal AI（2023年3月8日開示「子会社における新たな事業の開始に関するお知らせ」参照）の業績影響は織り込まれているものの、直前連結会計年度（2023年2月期）の売上高に対する10%に該当する売上高の増加（430百万円）と同額の費用計上をAI事業において行っております。

Metareal AIの費用については、事業開始日である5月31日までの特別な支出は限定的であるものの、業界動向・成長曲線変容が非常に早く、見積りが困難であることに鑑みて売上影響と同額の費用が発生することから、Metareal AIによる売上増加と同額という保守的な見込みを用いています。

3. 2024年2月期の連結業績予想の「経常利益」、「親会社株主に帰属する当期純利益」及び「1株当たり当期純利益」については、新規事業Metareal AIに伴う負債・資本両面での資金調達等の財務計画上の不透明さがあることから、現時点では非開示としております。今後、予想の確度が上がった場合には、速やかに具体的な数値の開示をさせていただきます。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

(注) 詳細は、添付資料P. 7「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（4）四半期連結財務諸表に関する注記事項（四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用）」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無

② ①以外の会計方針の変更：無

③ 会計上の見積りの変更：有

④ 修正再表示：無

(注) 詳細は、添付資料P. 7「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（4）四半期連結財務諸表に関する注記事項（会計上の見積りの変更）」をご覧ください。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

2024年2月期2Q	10,762,060株	2023年2月期	10,688,460株
2024年2月期2Q	468株	2023年2月期	468株
2024年2月期2Q	10,689,592株	2023年2月期2Q	10,679,770株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数（四半期累計）

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報（4）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

（決算説明資料の入手方法）

決算補足説明資料はT D n e t で同日開示しております。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) キャッシュ・フローの状況	3
(4) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	5
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	5
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	6
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	7
(会計上の見積りの変更)	7
(追加情報)	7
(四半期連結損益計算書関係)	7
(セグメント情報等)	8
(1株当たり情報)	10
(重要な後発事象)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間(2023年3月1日~2023年8月31日)につきましては、AI事業は受注、売上、営業利益共に過去最高を更新し、HT事業のセグメントにおいては対前年同期比における利益の減少が発生したものの、メタバース事業においては損失発生額が縮小いたしました。

結果、当第2四半期連結累計期間における当社グループの売上高は2,112,250千円(前年同期比2.3%減)、営業利益は390,578千円(同61.5%増)、経常利益は419,871千円(同55.3%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は232,859千円(同111.9%増)となりました。

なお、メタバース事業を除いた売上高は2,110,110千円(前年同期比2.2%減)、営業利益は511,193千円(同9.3%増)となりました。

セグメント別の業績は、以下のとおりであります。

当第2四半期連結会計期間より、従来「MT事業」としていた報告セグメントの名称を「AI事業」に変更しております。この変更によるセグメント情報に与える影響はありません。

①AI事業

AI事業におきましては、受注活動は堅調に推移し1,677,545千円(前年同期比15.2%増)となりました。売上高は受託案件等の影響により1,554,617千円(前年同期比5.7%増)となり、セグメント利益は新規事業である「Metareal AI」への先行投資影響を含めても443,116千円(前年同期比36.5%増)となりました。短中期の成長施策として本年度より開発・提供を開始した「Metareal AI」プロジェクトに関しましては、早期での業績寄与を目指し、大手のお客様を中心に生成AIを活用した様々な提案、営業を開始しております。

②HT事業

HT事業におきましては、売上高は555,493千円(前年同期比19.1%減)となり、セグメント利益は71,083千円(前年同期比48.4%減)となりました。

③メタバース事業

短中期の成長施策を「Metareal AI」プロジェクトにシフトし、メタバース事業は10±5年の長期視座として投資額を減らしたことにより、売上高は2,139千円(前年同期比49.7%減)となり、セグメント損失は120,614千円(前年同期は225,995千円のセグメント損失)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第2四半期連結会計期間末における流動資産は3,535,266千円となり、前連結会計年度末に比べ561,990千円増加いたしました。これは主に、現金及び預金が379,130千円増加、受取手形、売掛金及び契約資産が98,640千円増加、貸倒引当金が12,950千円減少したことによるものであります。固定資産は、前連結会計年度末に比べ165,267千円減少して1,082,165千円となりました。これは主に、有形固定資産が28,268千円減少、無形固定資産が120,019千円減少したことによるものであります。

(負債)

当第2四半期連結会計期間末における流動負債は2,179,946千円となり、前連結会計年度末に比べ190,454千円増加いたしました。これは主に、未払法人税等が169,980千円増加、前受金が115,071千円増加、短期借入金が100,000千円減少したことによるものであります。固定負債は、前連結会計年度末に比べ38,588千円減少して1,059,310千円となりました。これは主に、長期借入金が77,990千円減少、社債が53,000千円増加したことによるものであります。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産は1,378,174千円となり、前連結会計年度末に比べ244,855千円増加いたしました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上により利益剰余金が232,859千円増加したことによるものであります。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物は、2,920,855千円となり、前連結会計年度末に比べ378,827千円増加いたしました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは501,785千円の収入（前年同期は147,349千円の収入）となりました。

これは主に、税金等調整前四半期純利益の計上417,877千円、減価償却費の計上195,719千円、法人税等の支払額167,721千円、前受金の増加額115,071千円、売上債権及び契約資産の増加額59,118千円によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは52,606千円の支出（前年同期は84,731千円の支出）となりました。

これは主に、無形固定資産の取得による支出50,008千円によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは69,419千円の支出（前年同期は44,677千円の支出）となりました。

これは主に、長期借入金の返済による支出197,990千円、長期借入れによる収入150,000千円によるものであります。

(4) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

今後の経営上のテーマは以下の2点です。

①メタバース事業における「Metaverser」構想及びその手段としての「Metaverse×AI」

メタバース事業は、5年後以降での開花を想定する長期成長戦略として、「Metaverser」構想及びその手段としての「Metaverse×AI」を課題として取り組みます。

②「Metareal AI」プロジェクト含むAI事業

ドキュメントAI翻訳の『T-400』『T-3MT』、音声AI翻訳の『オンヤク』等のサービスを展開するAI事業については継続して安定成長を目指します。

本年度よりサービス提供を開始した「Metareal AI」プロジェクトはChatGPT等の生成AIをはじめとした様々なAI技術を活用したプラットフォーム開発やアプリケーション開発、独自LLM開発、個別企業の要望に合わせた受託開発等を提供し、世界規模の急激なAIシフトに日本企業が対応できるビジネス環境のワンストップなAI化を推進してまいります。

「Metareal AI」プロジェクト含むAI事業により、5%～20%の成長を目指します。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年2月28日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年8月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,523,695	2,902,826
受取手形、売掛金及び契約資産	280,313	378,954
棚卸資産	16,075	23,517
その他	195,242	259,069
貸倒引当金	△42,051	△29,101
流動資産合計	2,973,276	3,535,266
固定資産		
有形固定資産	117,936	89,668
無形固定資産		
のれん	6,709	3,354
ソフトウェア	647,051	524,571
ソフトウェア仮勘定	572	9,667
その他	16,752	13,473
無形固定資産合計	671,086	551,067
投資その他の資産		
投資有価証券	86,071	86,071
その他	372,338	355,358
投資その他の資産合計	458,409	441,429
固定資産合計	1,247,433	1,082,165
資産合計	4,220,709	4,617,432
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	74,270	68,462
短期借入金	100,000	—
1年内返済予定の長期借入金	385,980	415,980
1年内償還予定の社債	134,000	164,000
未払法人税等	28,913	198,893
賞与引当金	44,860	42,143
前受金	859,439	974,511
その他	362,028	315,955
流動負債合計	1,989,491	2,179,946
固定負債		
社債	388,000	441,000
長期借入金	669,550	591,560
その他	40,349	26,750
固定負債合計	1,097,899	1,059,310
負債合計	3,087,391	3,239,257
純資産の部		
株主資本		
資本金	786,021	792,020
資本剰余金	1,759,968	1,765,966
利益剰余金	△1,452,866	△1,220,007
自己株式	△951	△951
株主資本合計	1,092,171	1,337,027
新株予約権	41,146	41,146
純資産合計	1,133,318	1,378,174
負債純資産合計	4,220,709	4,617,432

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年3月1日 至 2022年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年3月1日 至 2023年8月31日)
売上高	2,161,415	2,112,250
売上原価	782,451	658,767
売上総利益	1,378,963	1,453,483
販売費及び一般管理費		
給料手当及び賞与	396,581	378,257
研究開発費	129,315	73,063
賞与引当金繰入額	2,113	147
退職給付費用	3,564	3,656
その他	605,585	607,780
販売費及び一般管理費合計	1,137,159	1,062,904
営業利益	241,803	390,578
営業外収益		
受取利息	32	35
為替差益	886	1,347
助成金収入	13,049	16
貸倒引当金戻入額	34,042	46,455
その他	989	1,833
営業外収益合計	48,999	49,688
営業外費用		
支払利息	6,959	5,322
持分法による投資損失	5,232	10,829
社債発行費	6,624	3,088
その他	1,601	1,154
営業外費用合計	20,417	20,395
経常利益	270,386	419,871
特別利益		
固定資産売却益	—	831
特別利益合計	—	831
特別損失		
固定資産除売却損	2,435	—
減損損失	—	2,826
投資有価証券評価損	42,054	—
特別損失合計	44,489	2,826
税金等調整前四半期純利益	225,896	417,877
法人税等	116,025	185,018
四半期純利益	109,871	232,859
親会社株主に帰属する四半期純利益	109,871	232,859

(四半期連結包括利益計算書)
 (第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年3月1日 至 2022年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年3月1日 至 2023年8月31日)
四半期純利益	109,871	232,859
四半期包括利益	109,871	232,859
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	109,871	232,859
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年3月1日 至 2022年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年3月1日 至 2023年8月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	225,896	417,877
減価償却費	240,639	195,719
のれん償却額	3,893	3,354
減損損失	—	2,826
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△38,484	△54,601
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△2,160	△2,717
課徴金引当金の増減額 (△は減少)	△283,090	—
受取利息及び受取配当金	△32	△35
投資有価証券評価損益 (△は益)	42,054	—
持分法による投資損益 (△は益)	5,232	10,829
固定資産除売却損益 (△は益)	2,435	△831
助成金収入	△13,049	△16
支払利息	6,959	5,322
社債発行費	6,624	3,088
前受金の増減額 (△は減少)	1,027	115,071
売上債権及び契約資産の増減額 (△は増加)	132,737	△59,118
棚卸資産の増減額 (△は増加)	2,493	△7,441
仕入債務の増減額 (△は減少)	2,001	△5,807
未払費用の増減額 (△は減少)	△40,126	6,234
未払又は未収消費税等の増減額	△48,972	2,265
その他	△17,817	△16,147
小計	228,262	615,872
利息及び配当金の受取額	32	35
助成金の受取額	13,049	16
利息の支払額	△6,959	△5,322
法人税等の支払額	△97,185	△167,721
法人税等の還付額	10,149	58,905
営業活動によるキャッシュ・フロー	147,349	501,785
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△929	△3,860
有形固定資産の売却による収入	757	831
無形固定資産の取得による支出	△74,492	△50,008
貸付けによる支出	△10,850	△700
貸付金の回収による収入	782	1,130
投資活動によるキャッシュ・フロー	△84,731	△52,606
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の増減額 (△は減少)	△100,000	△100,000
社債の発行による収入	293,375	146,911
社債の償還による支出	△37,000	△67,000
長期借入れによる収入	—	150,000
長期借入金の返済による支出	△192,990	△197,990
リース債務の返済による支出	△13,083	△13,338
新株予約権の行使による株式の発行による収入	5,020	11,996
財務活動によるキャッシュ・フロー	△44,677	△69,419
現金及び現金同等物に係る換算差額	△2,031	△931
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	15,908	378,827
現金及び現金同等物の期首残高	2,410,143	2,542,027
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,426,052	2,920,855

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前題に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。

(会計上の見積りの変更)

(受託開発収益計上の見積りの変更)

当社は、受託開発の収益計上において、その受託開発毎の性質に基づいて収益計上を行っております。受託案件全体が長期にわたり、かつ契約関係が複雑な案件において「企業会計基準第29号 収益認識に関する会計基準第45項」における「履行義務の充足に係る進捗度を合理的に見積ることができないが、当該履行義務を充足する際に発生する費用を回収することが見込まれる」状況下に至った場合、原価回収基準に基づいて処理を行っております。

なお、同項の適用は「履行義務の充足に係る進捗度を合理的に見積ることが困難な状況下」のみでの適用であり、当第2四半期連結累計期間において、案件自体の進行並びに各種契約条件確定に伴い履行義務の充足に係る進捗度を合理的に見積ることが可能になった案件については見積りの変更を行い、原価回収基準による処理から、総原価に基づいたインプット法へ変更し、従来の見積額との差額を売上高に計上しております。

これにより、従来の方法に比べて、当第2四半期連結累計期間の売上総利益、営業利益、経常利益、税金等調整前四半期純利益がそれぞれ120,725千円増加しております。

なお、セグメント情報に与える影響は、「セグメント情報等」に記載しております。

(追加情報)

(グループ通算制度を適用する場合の会計処理及び開示に関する取扱いの適用)

当社及び一部の国内連結子会社は、第1四半期連結会計期間から、連結納税制度からグループ通算制度へ移行しております。これに伴い、法人税及び地方法人税並びに税効果会計の会計処理及び開示については、「グループ通算制度を適用する場合の会計処理及び開示に関する取扱い」(実務対応報告第42号 2021年8月12日。以下「実務対応報告第42号」という。)に従っております。また、実務対応報告第42号第32項(1)に基づき、実務対応報告第42号の適用に伴う会計方針の変更による影響はないものとみなしております。

(四半期連結損益計算書関係)

(1) 減損損失

前第2四半期連結累計期間(自 2022年3月1日 至 2022年8月31日)

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 2023年3月1日 至 2023年8月31日)

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(2) 投資有価証券評価損

前第2四半期連結累計期間(自 2022年3月1日 至 2022年8月31日)

当社が保有するVoiceApp株式会社の投資有価証券については、実質価額が著しく低下したものと判断し、評価差額である42,054千円を投資有価証券評価損として、特別損失に計上しております。

当第2四半期連結累計期間(自 2023年3月1日 至 2023年8月31日)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自 2022年3月1日 至 2022年8月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	AI事業	HT事業	メタバース事業	計		
財又はサービスの種類別						
機械翻訳	1,432,777	—	—	1,432,777	—	1,432,777
人間翻訳	14,814	686,689	—	701,504	—	701,504
メタバース	—	—	4,251	4,251	—	4,251
受託開発	22,882	—	—	22,882	—	22,882
顧客との契約から 生じる収益	1,470,474	686,689	4,251	2,161,415	—	2,161,415
収益認識の時期別						
一時点で移転される 財又はサービス	124,443	619,131	4,251	747,826	—	747,826
一定の期間にわたり移転 される財又はサービス	1,346,030	67,558	—	1,413,589	—	1,413,589
顧客との契約から 生じる収益	1,470,474	686,689	4,251	2,161,415	—	2,161,415
外部顧客への売上高	1,470,474	686,689	4,251	2,161,415	—	2,161,415
セグメント間の内部 売上高又は振替高	3,023	21,621	—	24,644	△24,644	—
計	1,473,497	708,311	4,251	2,186,060	△24,644	2,161,415
セグメント利益 又は損失(△)	324,524	137,879	△225,995	236,409	5,394	241,803

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額5,394千円には、セグメント間取引消去、及び全社費用が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない親会社本社の管理部門に係る費用等であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第2四半期連結累計期間(自 2023年3月1日 至 2023年8月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	AI事業 (注) 3, 4	HT事業	メタバース事業	計		
財又はサービスの種類別						
機械翻訳	1,386,851	16,281	—	1,403,133	—	1,403,133
人間翻訳	26,547	539,211	—	565,759	—	565,759
メタバース	—	—	2,139	2,139	—	2,139
受託開発	141,218	—	—	141,218	—	141,218
顧客との契約から 生じる収益	1,554,617	555,493	2,139	2,112,250	—	2,112,250
収益認識の時期別						
一時点で移転される 財又はサービス	124,658	485,654	1,111	611,424	—	611,424
一定の期間にわたり移転 される財又はサービス	1,429,958	69,838	1,028	1,500,825	—	1,500,825
顧客との契約から 生じる収益	1,554,617	555,493	2,139	2,112,250	—	2,112,250
外部顧客への売上高	1,554,617	555,493	2,139	2,112,250	—	2,112,250
セグメント間の内部 売上高又は振替高	3,209	24,839	39	28,088	△28,088	—
計	1,557,827	580,332	2,178	2,140,338	△28,088	2,112,250
セグメント利益 又は損失(△)	443,116	71,083	△120,614	393,584	△3,005	390,578

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△3,005千円には、セグメント間取引消去、及び全社費用が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない親会社本社の管理部門に係る費用等であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. 生成系AI関連売上は、プラットフォーム型売上については「機械翻訳」に含まれており、受託開発関連売上については「受託開発」に含まれております。

4. 「会計上の見積りの変更」に記載のとおり、当社は、受託開発の収益計上において、その受託開発毎の性質に基づいて収益計上を行っております。受託案件全体が長期にわたり、かつ契約関係が複雑な案件において「企業会計基準第29号 収益認識に関する会計基準第45項」における「履行義務の充足に係る進捗度を合理的に見積ることができないが、当該履行義務を充足する際に発生する費用を回収することが見込まれる」状況下に至った場合、原価回収基準に基づいて処理を行っております。

なお、同項の適用は「履行義務の充足に係る進捗度を合理的に見積ることが困難な状況下」のみでの適用であり、当第2四半期連結累計期間において、案件自体の進行並びに各種契約条件確定に伴い履行義務の充足に係る進捗度を合理的に見積ることが可能になった案件については見積りの変更を行い、原価回収基準による処理から、総原価に基づいたインプット法へ変更し、従来の見積額との差額を売上高に計上しております。

これにより、従来の方法に比べて、当第2四半期連結累計期間の売上総利益、営業利益、経常利益、税金等調整前四半期純利益がそれぞれ120,725千円増加しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

(セグメント名称の変更)

当第2四半期連結会計期間から、従来「MT事業」としていた報告セグメントの名称を、「AI事業」に変更しております。この変更はセグメント名称の変更であり、セグメント情報に与える影響はありません。なお、前第2四半期連結累計期間のセグメント情報についても変更後の名称で記載しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年3月1日 至 2022年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年3月1日 至 2023年8月31日)
(1) 1株当たり四半期純利益	10.29円	21.78円
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益(千円)	109,871	232,859
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益(千円)	109,871	232,859
普通株式の期中平均株式数(株)	10,679,770	10,689,592
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益	10.12円	21.42円
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益調整額(千円)	—	—
普通株式増加数(株)	177,336	179,505
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	—	—

(重要な後発事象)

該当事項はありません。